

授業概要

人が「見えた」「聞こえた」「温かい」「美味しい」などと感じるのはどういうことなのでしょう？ 知覚心理学は、世界にあるさまざまな情報から自分を取り巻く環境を認識する仕組みを科学的に明らかにしようとする心理学の分野です。本授業では、知覚心理学の幅広い研究領域に関して、それぞれの領域を代表する基本的な理論・モデルを紹介し、具体的には、視覚を中心とした感覚・知覚の発生メカニズムや、知覚機能がもたらす環境の誤認や行動の影響、知覚研究知見が社会や技術へ応用される例について講義します。授業では、感覚・知覚の興味深い現象を楽しく実感できるような演習や、実験に適した環境（例えば防音/暗室など）の紹介を交えながら、脳の中で行われている複雑な情報処理について理解を深めていただきます。これらを通して、自己理解及び他者、社会への理解を深めるとともに、人々の福祉のために心理学の知識と技能を活かす倫理観を身につけることを目的としています。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：知覚心理学とは
第 2 回	知覚の恒常性
第 3 回	錯覚
第 4 回	視覚（1）：色と明るさの知覚
第 5 回	視覚（2）：形と顔の知覚
第 6 回	視覚（3）：奥行知覚と立体視
第 7 回	視覚（4）：運動知覚
第 8 回	眼球・身体運動
第 9 回	聴覚
第 10 回	嗅覚・味覚・体性感覚
第 11 回	時間知覚・注意
第 12 回	多感覚相互作用
第 13 回	バーチャルリアリティ
第 14 回	知覚の発達
第 15 回	感性
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・知覚心理学における基礎的な知識を学び、知覚心理学の研究方法を理解し、説明することができる。
- ・日常のさまざまな知覚現象に気づき、その現象のメカニズムについて考察できる。

履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。授業での演習や討論に積極的に参加すること。
- ・知覚の働きについて、自ら関連文献を調べ、理解を深めようと取り組むこと。

予習・復習

- ・授業の進捗状況に合わせて配布資料などを参考に予習および復習を行うこと。
- ・授業中に質問し、意見を求めるなどして、予習復習の確認をおこなうことがある。

評価方法

授業における課題（60%）と学期末試験（40%）から総合的に評価する。

テキスト

資料を配布するためテキストは指定しない。授業内で、参考書を適宜紹介する。